

長崎の林業

小曾根星堂書



世界に一つだけの竹ボールペン（長崎市 池田和明さん）

10

目次

●林政だより	長崎県民の森：森林ウォーキングでリフレッシュしませんか？……………2～3
●特集記事	身近な文房具で竹の魅力を伝える 竹ボールペン作家 池田 和明さん……………4～5
●林業普及だより	下刈りの省力化は可能？ ～ツリーシェルターの試験施工～…………… 6
●地方だより・壱岐	壱岐市林業研究同志会による壱岐やまざくら保存活動………… 7
●地方だより・島原	いつも旬の季（とき） 雲仙の四季賛歌…………… 8
●林業団体情報	諫早市独自の森林整備事業について…………… 9
●センターだより	木質バイオマスボイラーの導入に向けて 「木質バイオマスの品質とボイラーの選定」……………10
●紹介コーナー	木工作家 堀宏治さん……………11
●長崎の山	飯盛山531m（西海市）……………12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。



2021 No.793

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

長崎県民の森：森林ウォーキングでリフレッシュしませんか？



散策ルート（岩背戸溪谷付近）

はじめに

県民の皆様におかれましては、日頃より、新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご協力いただき、ありがとうございます。

今後も自粛期間が続きそうですが、「外の空気を吸ってリフレッシュしたい！」という方も多くいらっしゃるかと思います。

そこで、県民の森での楽しみ方の一つとして、森林ウォーキングをご提案いたします。

いやしの森散策ルート

長崎県民の森では、「いやしの森散策ルート」として、多くの皆様楽しんでいただける散策コースを複数設定しております。

【体力に合わせた3つのコース】

①高齢コース

アップダウンを適度に組み込んだ無理のないコースです。変化に富んだ森の素晴らしさをお楽しみください。

高齢コースと称していますが、森林ウォーキング初心者やお子様連れのご家族等、多くの方にお楽しみいただけます。

コース総距離：1.9km 高低差：48m

②健脚コース

県民の森特有の高低差を活かしたコースです。無理のない範囲でお楽しみください。

癒しや安らぎを与える効果のあるフィトンチッド（樹木等が発散する化学物質）が多いコースでもありますので、適度な運動と癒しの空気で心身共に健康になれます。

コース総距離：3.6km 高低差：175m

③車いすコース

車いすでも通れるよう、なだらかなコースになっています。部分的に車いすの介添えが必要などがあります。

アップダウンの少ない、岩背戸溪谷沿いのコースになりますので、川のせせらぎや鳥の声を聞きながらゆっくり散策できます。

コース総距離：2.5km 高低差：108m

【県民の森お勧め 癒しの森モデルコース】

①飛沫浴コース

マイナスイオンが多いとされるせせらぎ沿いをたどるコースです。所要時間は100分です。

コース総距離：3.2km 高低差：155m

②フィトンチッド浴コース

フィトンチッドを多く発散するヒノキ林をたどるコースで、所要時間は210分です。

フィトンチッドには、自律神経をリフレッシュする効果もあるそうです。

癒しを目的に長時間の森林浴を楽しみたいという方にお勧めです。

コース総距離：4.8km 高低差：183m

散策を楽しむにあたって

昨年度より、コースの案内板をリニューアル・増設し、より分かりやすいコース作りに努めています。散策中はコース上の案内板及びルートマップをこまめに確認しながら、お楽しみ下さい。



昨年度新設のコース案内板

ルートマップは長崎県庁5階エレベーター前、長崎県民の森 森林館やキャンプ場管理棟、及び散策ルート入り口に設置してあります。散策時は、遭難防止のため、必ずお持ちください。

また、山は日が暮れるのが早いため、午後3時には出発地に戻ってこられるよう、散策の計画をお願いします。

万が一、途中で怪我人が出た、コースに戻れなくなった等ございましたら、道の途中に設置しております緊急連絡装置にて、管理事務所へご連絡ください。緊急連絡装置の位置はルートマップ上に下記マークで記してありますので、事前にご確認をお願いします。

緊急連絡装置



また、コースに不安がある場合は、出発前に管理事務所へお尋ねいただくと、後々の事故防止に繋がりますので、お気軽に森林館管理事務所へお立ち寄りください。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、休園している場合があります。事前に県民の森HPのご確認をお願いします。

(林政課 森林活用班)

【特集記事】 身近な文房具で竹の魅力を伝える



竹ボールペン作家 池田 和明さん

長崎市 竹ボールペン作家 いけだ 池田 かずあき 和明さん

暮らしの中に息づく「竹」

一口に「竹」と言っても、その種類は世界中で実に1400種類以上にものぼるとされており、現在国内で確認されているのは600種類程です。昔から様々な用途で使われてきた竹ですが、古い記録としては縄文時代の遺跡から竹や笹を使ったカゴが発掘されています。実際に利用されているのは真竹、孟宗竹、淡竹、女竹などで、主に建築資材や造園資材、工芸品など工業的活用と文化的活用がなされています。

今回は、長崎市でこの竹を使った「世界に一つだけ」の珍しい文房具を作っている池田和明さんにお話を伺いました。

竹細工との出会い

今年70歳を迎える池田さんは現役時代、県職員として行政から教育現場まで広く県政に関わってこられました。そんな池田さんが竹とのつながりを持ったきっかけはお父様でした。農家だった父は腰を痛めて農作業が難しくなった時、趣味として竹細工を始められたそう。畑で使う竹カゴなどの農具は作った経験はあったものの、工芸品制作は経験がな

かったため池田さんがアイデア係になったそう。ちょうどその頃、住まいがある外海神浦地区で秋の恒例イベント「神浦散歩未知（さんぽみち）」が開催されていました。そのイベントに出品するための作品作りは張り合いもあり、父の制作を手伝ううちに池田さんご本人も少しずつ竹細工の楽しさに目覚めていきました。

本格的な制作から販売への道



(左) 竹の細い枝と節で作った「龍踊り」
(右) 組み立てられる前の竹細工の各パーツ

池田さんが父の跡を継ぎ本格的に竹細工を始めたのは今から15年程前、忙しい仕事の合間を縫い約3か月かけイベント用の作品を制作していました。材料は叔父が所有する神

浦地区の山で自ら良い竹を伐り準備しました。やじろべえの原理で揺れる「ゆらりトンボ」が人気で、イベントを訪れたお客さんからの「道の駅にあったら沢山の人がもっと気軽に買えるね。」という声がきっかけとなり、定年後に「道の駅夕陽が丘そとめ」での販売という夢が叶いました。



(左) 絶妙なバランスで揺れる「ゆらりトンボ」
(右) 「釣りをする人」「農作業」などの作品たち

次なる挑戦「自分だけの文房具」作り

元々、文房具が大好きで様々な種類の文房具を揃えていた池田さん。ある時、身近な竹で自分だけのオリジナルボールペンを作りたいと思い立ちました。節のある竹に細い芯を固定させ、軸より一回り大きい竹でキャップを作ります。それは大変手間がかかる細かい作業の連続でした。しかし完成した作品は周囲の人から大好評で販売を求める声が多く届きました。



(左) 竹の太さや節に合わせ削り微調整を重ねる
(右) 初期の頃の作品 真ん中は庭のサクラで制作

黒竹との出会い

当初、地元の神浦に生えている淡竹を使って作品を作っていましたが、池田さんにはぜひ一度使ってみてみたい憧れの竹がありました。それが黒竹です。庭先で黒っぽい竹を数本目にするがありますが、竹林として群生している場所はあまり見かけません。池田さんは県内唯一の竹材店「川添竹材商店」を訪れ、

そこで大変模様のいい黒竹に出会いました。この時一目惚れした竹を使い、ようやく自分が作りたかった理想の竹ボールペンが完成したのです。



(左) 手前が黒竹を使ったボールペン
(右) 仕込み刀形状のボールペン

竹のプロもうなる黒竹の作品

「川添竹材商店」長崎営業所の川添秀樹さんは、なじみの客である池田さんが黒竹で何かを制作しているのはもちろんご存じでしたが、実際に作品をご覧になるのは今回が初めてとの事。黒竹のボールペンを見て驚きを隠せなかったようで「このように加工してもらえると嬉しい。」と何度も手に取り眺めておられました。長崎県内では黒竹はあったとしても伐り子さんがいないのでなかなか流通しないと話す川添さん。このように資材としての活用だけでなく、手に取りやすい作品に生まれ変わらせてくれる池田さんの存在は貴重だと話されました。

竹の持つ美しさを伝えたい

以前は小学生を対象に竹細工教室を行っていた池田さん。ものづくりを通し工夫や気づき、自然が生み出す美を伝えていきます。生えたての緑色が寒に当たる（一冬越す）ことで黒に変わる黒竹、1本として同じ色、形状のものはありません。同じく虎模様の斑紋が出る虎竹、ゴマ模様の斑点が出るゴマ竹など個性的な美しさを放つ竹が沢山存在します。池田さんは自然のままの美しさを伝えるため世界に一つだけの作品を作り続けています。

(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

下刈りの省力化は可能？～ツリーシェルターの試験施工～

取組の背景

健全な森林を育成するには、伐採後の確実な再造林と下刈り等の初期保育作業が不可欠です。通常、下刈りは植栽後6年程度実施しています。植栽や下刈りに必要な経費は育林経費全体の約7割を占めており、近年の材価の低迷や労賃の高騰から森林所有者にとっては大きな負担となるため、低コストでの施業の確立が求められています。

また、林業従事者の減少や高齢化が進む中、夏季の過酷な環境下で実施する下刈りの省力化は特に課題となっています。

県央振興局では、長崎南部森林組合と連携して「ツリーシェルター」を活用した下刈り省力化試験の取組を始めましたのでご紹介します。

ツリーシェルターとは

そもそもツリーシェルターは、植栽した苗木をシカなどの食害から守るために用いる単木保護資材です。ネットタイプと樹脂製円筒タイプに大別できますが、特に樹脂製円筒タイプは強い紫外線や風等、苗木が受けるストレスを解消することで苗木の伸長成長促進効果があるともされています。

日本で初めて紹介されてから25年を経過し、九州内の国有林をはじめ、全国各地で設置試験等が行われています。

試験の概要

試験地は大村市の私有林約0.1haです。令和2年に70年生のヒノキを択伐し、クヌギを樹下植栽した箇所で、残存していた上層ヒノキを今年3月下旬に伐採。さらにヒノキ裸苗100本を植込み、ツリーシェルターを施工しました。

今回使用したのは高さ70cmタイプと90cmタイプです。どちらも直径10cm円筒形のツリーシェルターを2本の支柱で支えます。

シカ食害予防のために設置する場合は通常140～170cmタイプですが、今回は施工性とコストを考慮し、低いタイプを採用しました。

なお、本取組は令和2年度林業普及新規活性化対策事業を活用しました。

これから

今夏、ヒノキ植栽後初めての下刈りは実施しません。来年以降は苗木の状況を確認しつつ、無処理区の設置とあわせて、必要な手入れを行う予定です。

7月上旬には、シェルター高を超えた苗木の成長はまだほとんど見られませんでした。枯損等もなく、順調に生育している様子が確認できました。

今後も継続的に苗木の成長を確認し、低コスト施業の確立に向けて検討を行なっていきます。

(県央振興局 林業課普及班)



令和3年3月下旬 ヒノキ植栽



令和3年7月上旬

地方だより

壱岐市林業研究同志会による 壱岐やまざくら保存活動

はじめに

壱岐市林業研究同志会（同志会）は、昭和54年に芦辺町林業研究同志会として発足し、平成17年に今の壱岐市林業研究同志会に拡大発足し、今年で結成42年を迎えました。

発足以来、地元の森林所有者を中心として、地域林業の中核を担う活動を行っています。今回は、同志会の活動の一つである壱岐やまざくらの保存活動について紹介します。

壱岐やまざくら母樹園

壱岐やまざくら母樹園は、平成22～24年に白翁、大谷、栄光、湯ノ香の4品種を植栽しています。この4品種は、一般的なソメイヨシノと比べて成長が早く樹齢が長い特徴があります。中には2倍以上の200年に達するものもあるそうです。また、4品種はそれぞれ開花時期が異なるため、3月中旬から4月中旬の長期間にわたり桜の開花を見ることができます。



作業状況（昨年）

品種	花色	花数	開花時期
湯ノ香	白（薄桃）	多い	3月中下旬
大谷	白（赤）	多い	4月中旬
白翁	純白	多い	4月中下旬
栄光	桃（赤）	普通	4月中下旬

※特性はソメイヨシノと比較

今年も保存活動の一環で、7月11日（日）に会員6名で草刈り作業を実施しました。ツルが多く巻付いており、幹や枝を傷つけないように慎重に作業を行いました。また、7月ということもあり暑い中、熱中症にも注意しながら作業を行いました。



作業後の写真

おわりに

同志会では、壱岐やまざくら保存活動のほかにも壱岐島内の銘木・巨樹の保存活動や、緑の少年団の支援活動など、地域と同志会が一体となり、林業をとおして地域の活性化を行っています。壱岐振興局では、今後も引き続き、同志会の活動を支援していきます。

（壱岐振興局 農林整備課）

地方だより

いつも旬の^{とき}季 雲仙の四季賛歌

今も昔も変わることのない、湯けむりと硫黄の香り、人を魅了する湯の街には、人を笑顔にさせる出会いがあります。

今回は、島原半島随一の名勝地「雲仙」の四季をご紹介します。

雲仙は昔「温泉（うんぜん）」と書き表されてきました。これは、「温泉山満明寺」の山号から来たものですが、やがて風流な文人らが「雲仙」と表すようになり、これが定着したものです。



雲仙で感じる四季の移ろい
(写真提供：(一社)雲仙温泉観光協会)

春 ～ Spring ～

木々が黄緑色の衣に着替えると、山はピンクのミヤマキリシマで見事に染め尽くされていき、雲仙は^{いろど}彩り豊かな季節を迎えます。「ウンゼンツツジ」とも云われるミヤマキリシマは、地獄周辺では4月下旬頃から咲き始め、仁田峠では5月中旬頃が見ごろとなります。

夏 ～ Summer ～

蝉時雨が聞こえはじめたら、緑の息吹が^{せみしくれ}一帯を包み込み、涼やかな風が吹き、ギンヤマが飛び交い、そして雲仙はオアシスになります。雲仙の夏は平均気温21～22度と涼しく、昔から避暑地として知られ、内外から多くの方が訪れています。夏山はヤマボウシの花が覆い尽くすように咲き、ひときわ目を引きまします。

秋 ～ Autumn ～

燃えるような鮮やかな紅葉が山々を染め尽くし、全てが清らかに澄みわたります。

木々の実も^{いろど}彩りを添えて、一年のクライマックスを迎えます。10月下旬、山の山頂からはじまって、徐々に全山を染め上げて11月中旬まで見ることができます。妙見岳山頂から眺める360度のパノラマは圧巻です。

冬 ～ Winter ～

神秘的な美しさに包まれる冬の雲仙。まるで天使が白い衣を羽織ったように、霧氷が冬枯れの景色を真っ白な山並みに変身させます。「花ぼうろ」と呼ばれる霧氷は、気象条件が整って初めて見ることができる貴重な自然現象です。朝日に輝く、白銀と光の芸術をぜひご体験ください。

(島原振興局 林務課)

林業団体情報

諫早市独自の森林整備事業について

はじめに

諫早市は、北部の多良山系をはじめとする多くの森林資源に恵まれ、市の総面積の42%が森林です。市内の森林を整備していくことは、水資源の約8割を地下水に依存している本市にとって、重要な施策と言えます。

今回、本市が実施している森林整備事業のうち、独自の取組である「豊かな森づくり事業」と「ツクシシャクナゲの森整備事業」についてご紹介します。

豊かな森づくり事業

豊かな森づくり事業は、森林所有者が行う下刈り、間伐といった森林整備にかかる経費負担を軽減することにより事業を推進し、森林の持つ水源涵養や防災機能等の公益的機能を高めようとするものです。具体的には、森林組合が行う個人経営林の整備に要する費用のうち、国県補助分を除いた個人負担分に対し一定の割合で市が上乗せ補助を行っております。

第1次計画（平成19年度～令和2年度）での主な実績は、広葉樹植栽261ha、下刈り1,262ha、針葉樹の除間伐1,811haとなっており、計画目標値の90%以上を達成しました。

その後、新たに令和3年度から10カ年を計画期間とする第2次計画を策定し、更なる整備促進を図っているところです。



間伐作業が完了した森林

ツクシシャクナゲの森整備事業

諫早市の市花であるツクシシャクナゲは、ツツジ科の常緑低木で、4月下旬から5月上旬にかけて淡い紅色の花を咲かせます。

本市では、高来町にある国指定天然記念物「多良岳ツクシシャクナゲ群叢」の周辺地に平成25年度から10カ年計画でツクシシャクナゲ3,000本の植樹を目指し、地元山林会の方々の協力のもと整備を進めております。

毎年3月には地元自治会、学童等を招いて植樹体験を行っており、花の見ごろとなるGW前には市内外から多数の花見客が訪れ、森林内の散策を楽しんでおられます。



ツクシシャクナゲ植樹体験

終わりに

本市では、豊かな森づくり事業は、手入れ不足の私有林を対象とした森林環境譲与税による事業とバランス良く進めていくことが重要と考えております。また、ツクシシャクナゲの森整備事業は、これまで森林にあまり興味がなかった方にも足を運んでもらえるような空間づくりを地元の方と楽しく話し合いながら進めています。

今後も今回紹介させていただきました2つの事業を含めて、より良い森林づくりを目指していきたいと思っております。

(諫早市 林務水産課)

センターだより

木質バイオマスボイラーの導入に向けて 「木質バイオマスの品質とボイラーの選定」

県内では、木質バイオマスボイラーが温浴施設や菌床きのこ栽培施設等に導入されています。さらに新規導入に向けた取組もされています。しかし、ボイラー導入後に、木質バイオマスの燃焼がうまくいかず、熱量が得られないとの話も聞かれます。ボイラー導入後に発生するトラブルの多くは供給できる木質バイオマスの品質とボイラーの性能のミスマッチが原因です。そこで、今回は、導入にあたって検討すべき点「木質バイオマスの品質とボイラーの選定」について解説します。

木質バイオマスの品質

木質バイオマスは石油などの化石燃料とは異なり、均質ではありません。原料となる木材は樹種が異なったり、製材端材、建築廃材、間伐材等と由来も様々です。また、間伐材から生産される燃料には、木部のみを原料としたもの、木部に樹皮を含むもの、樹皮のものなどがあります。形状は、薪、ペレット、チップがあり、チップは切削と破碎に分けられます（写真1）。また、燃焼に大きく影響を与える含水率は、同じ樹種であっても生産者によって異なります（表1）。



写真1 薪（左上）、ペレット（右上）
切削チップ（左下）、破碎チップ（右下）

木質バイオマスボイラーの選定

木質バイオマスボイラーには木質バイオマスそれぞれの形状に対応したものがあります。

また、ボイラーが燃焼可能な木質バイオマスの含水率の範囲も様々です。

例えば、切削チップ対応のボイラーに、破碎チップを投入するとチップが搬送される途中で絡まって詰まり、故障の原因になります。また、乾燥チップ（含水率50%程度・乾量基準）対応のボイラーは含水率が高いチップをうまく燃焼できないため、熱量が得られません。逆に、生チップ（含水率100%程度・乾量基準）対応のボイラーは、乾燥したチップを燃焼させると温度が上がり、燃焼炉を傷めるといった問題が発生します。そのため、ボイラーの選定は、地域で常に入手可能な木質バイオマスであることと、生産可能な木質バイオマス燃料の品質に適合したものにすることが重要です。

このように、木質バイオマスボイラーを導入して安定して稼働させるためには、その地域でどのような品質の木質バイオマス燃料が生産されているか、又は供給可能であるかとそれらと合わせて、ボイラーの特性を十分に理解しておく必要があります。

（長崎県農林技術開発センター）

表1 県内で生産される木質チップの品質

事業体	含水率(%)		樹種	形状
	乾量基準			
A	76.4		広葉樹	切削
A	31.1		スギ	切削
B	54.9		ヒノキ	切削
C	52.3		広葉樹	破碎
D	18.2		ヒノキ	切削

紹介コーナー

木工作家 堀 宏治（ほりこうじ）さん



堀さん愛用の制作道具と無垢材の作品

長年、鎌倉で木工作家として制作活動を続けてこられた堀宏治さん。現在は生まれ故郷である佐世保市に戻り、海辺の小さな工房で日々作品を制作しています。堀さんの作品の特徴はとにかくシンプルで美しい彫り目が際立つデザイン。そのシンプルさは生活の中にさり気なく溶け込み、食卓の上でも主役である料理や器を邪魔しない静かな佇まいです。しかしなぜか目を奪われる存在感はある種独特で、一度手にするとその繊細な手仕事に驚きを隠せません。堀さんが制作の過程で思い描くのは「温かな光が差し込むお縁でほっこりとお茶を楽しむ時間」。そんな優しい時間のお供に使ってほしい作品はどれもふんわり

とお日様の匂いがしてきそうな小物たちです。日常の中で使われてこそ美しさと味わいを増す作品は、これまでに数多くの雑誌で紹介され料理家たちに愛用されてきました。今年度の中学校美術の教科書にも採用されており子ども達の目にも届けています。来年度は長崎市内での個展も控え、日々国内外からの注文に追われていると話す堀さん。海辺の工房で使い手に渡る日を思い描きながら、今日も静かに木と向き合っています。

(NPO 法人地域循環研究所)



左：一番人気の丸盆 右：紺色の漆塗りのお皿

木工作家 堀 宏治 さん

住所：長崎県佐世保市相浦町 2687

H P：funwave-horihori.com

※お問合せは SNS 又はメールにてお願い致します

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和3年9月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m ³)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	35,500	少ない	多い	多い
	16~18	小曲り	34,500	少ない	多い	多い
	20~22	直	27,200	少ない	多い	多い
	20~22	小曲り	25,000	少ない	多い	多い
	24~28	直・小曲り	28,000	少ない	多い	多い

【スギ】

令和3年9月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m ³)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	18,000	少ない	多い	多い
	16~22	小曲り	17,000	少ない	多い	多い
	24~28	直	18,000	少ない	多い	多い
	24~28	小曲り	16,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

長崎の山

飯盛山 531 m (西海市)

西海市飯盛山の登り口は、長崎県民の森東口ゲートを起点にして、車で大串方面を目指すと4分ほど進んだところにあります。車を走らせると左方向に小さな堤が見え登り口の目安になります。

登り口の門扉を過ぎて数分歩くと道が分岐しています。道の右方向はよく管理されているようで他人が簡単に侵入できないように通路が封鎖されています。左方向は雑草が生い茂っています。左方向の路線を選んで、稜線を目指すと30分以内で飯盛山の頂上に到達することができました。

飯盛山の稜線に沿って県営林の標柱が設置されています。調べてみると東斜面は県営林マクラギ団地であることが判明しました。選んだ道は、実は利用間伐を実施するための作業道です。この団地は斜面がなだらかで林業機械を投入しやすく、コストをかけずに主伐を実行できると思われます。稜線を境にして反対側は、雑木林になっています。

アカガシ、シキミ及びアセビなどの樹木がありました。頂上から麓は見えません。また飯盛山の稜線は、西彼杵半島の内海と外海を仕切る分水嶺となっています。飯盛山は雪浦川の源流部の一つになっています。

雪浦ダムで貯水された水は長崎市の水道原水として利用されています。長崎市は地下水が乏しく大きな河川もないという地形上の制約から、水源をダムに頼るしかありません。長崎市は坂の町と呼ばれるように山が長崎港に迫っており、平地に乏しい地形をしています。そのため長崎港を埋め立て平地を造成して経済を発展させてきました。埋立地から水が湧き出すことは期待できません。長崎市の経済発展に伴う給水人口の増加と相俟って慢性的な水不足は住民にとって深刻でした。昭和39年(1964)から昭和42年(1967)頃にかけての異常気象、異常渇水は特にひどく、水不足が最も厳しかった浦上水系では2日で3時間しか給水できなかったこともあります。新聞やニュース等ではさかんに「長崎

サバク」という言葉が使われたのもこの頃でした。

昭和42年(1967)に認可された水源拡張計画に基づき、神浦ダムや雪浦ダムなどが以後建設されていきます。関係者の努力の結果、当面安定した水の供給体制が確立されたのは昭和56年(1981)です。水の安定供給を抜きにして快適な生活は望めません。水は大切なものです。

また飯盛山など山の働きにも目を向けたいものです。森林に落下した雨の65%は森林土壌に吸収されて地下水となり、いずれ河川に流出して私達の生活用水となっているのです。

最後に長崎県に飯盛山と名付けられた山は10山ほどあるそうです。

(NPO 法人地域循環研究所)



雪ノ浦ダム

長崎の林業 10月号 第793号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2990
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp